

遺跡でたどる 袋井のあゆみ

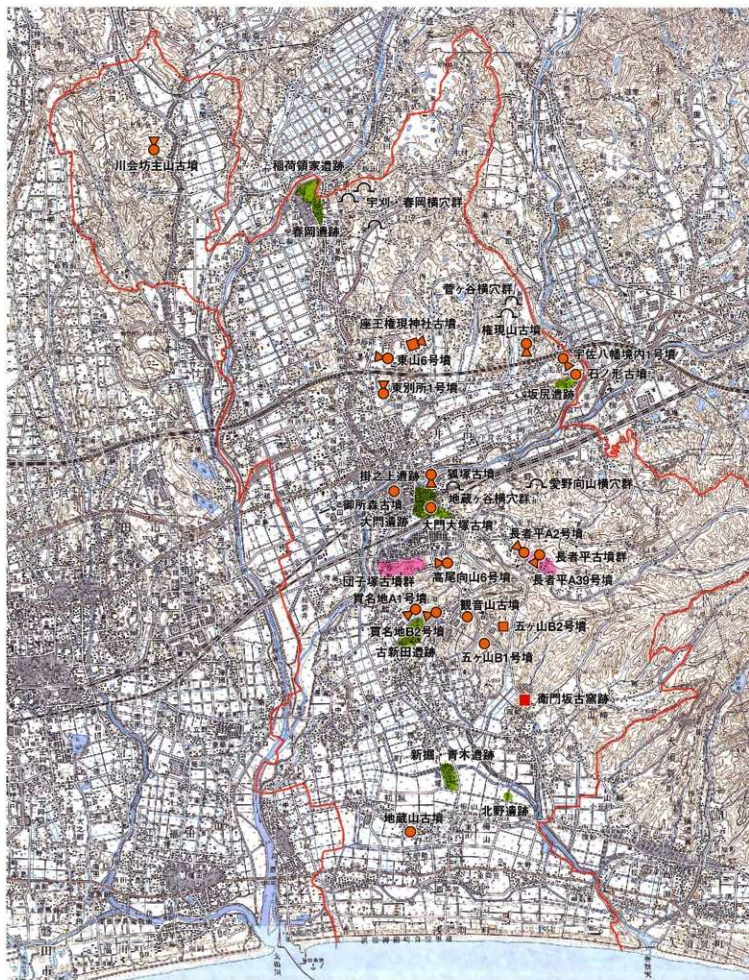
第2弾

古墳時代の巻



袋井市教育委員会 袋井市立浅羽郷土資料館

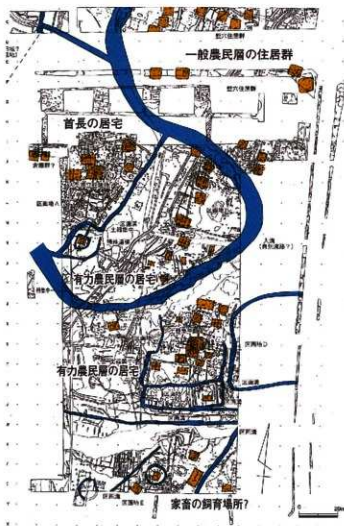
古墳時代の袋井の主要遺跡



ちはい

には
され

さかじり
坂尻遺跡 【国本】



坂屋遺跡の集落構成図（6世紀末）

溝で区画された中に、機能の異なる建物が配置されている。
首長の邸宅も集落内に存在したようだ。



古墳時代後期（6世紀）の大集落 【坂尻遺跡】



竪穴住居の一例 【坂尻遺跡】

竈(かまど)、その側からはたくさんの上器が出土した。
下の写真の上器と復元竈はこの住居のもの。



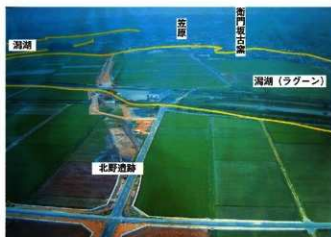
復元電



古墳時代前期（4世紀）の水田跡【坂尻遺跡】
面積2～5畝の小型の水田からなる



鉄製 鋤先 【雲座古墳群D群出土】
5世紀頃から鋤や鍬の先に付ける鉄製の刃がU字形
に変わり、より深く、効率的に耕せるようになる。



湖沼に面した集落 【北野遺跡】

浅利低地に深く入り込んだ湖沼は天然の良港だったと考えられる。
これに面して6世紀代の集落が大溝の回りに形成されている。
水運とかわかる遺跡か。出土する須恵器は湖沼の対岸、衛門坂窯
のもの。

北野遺跡 【梅山】

北野遺跡大溝から出土した貝と獣骨

北野遺跡の大溝からは六世紀前半の古墳時代
人が食べた貝の貝殻と獣の骨が出土した。貝は大
粒のヤマトシジミが大半を占め、カキ、サルボウ
も含まれている。

獣骨の残りは良く、細かい加工痕が観察できる。
大半がシカとイノシシで、生で割られた骨が多く
含まれており、骨髄を食するための加工と考えら
れる。これは縄紋的骨髄利用の名残である。



小貝塚に捨てられた獣骨 【北野遺跡】



小貝塚に捨てられた貝 【北野遺跡】



豪族居館の中心部 【古新田遺跡】



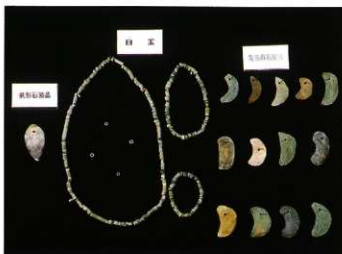
豪族居宅の復元 【坂尻遺跡】



溝の中から集中して出土する土器 【坂尻遺跡】
首長の居宅と考えられている一画の溝から出土した。祭祀に用いたものか。

古新田遺跡 【浅羽】

5世紀後半の豪族居館(邸宅)で、その敷地は1万㎡に及ぶ。南側では谷を埋めて広場を造成し、その回りに建物が並ぶ。そこには四面庇建物と呼ばれる正殿が伴うので「政庁域」と推定され、北側には広場を囲って倉庫群・管理棟が規則正しく配置される空間が確認された。

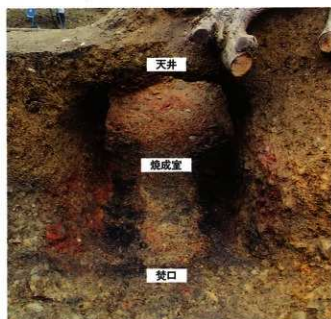


マツリに使われた滑石製品 【古新田遺跡】

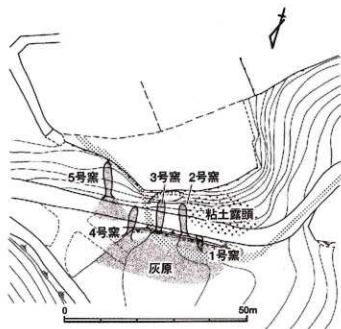


河内(大阪府)陶器窯からもたらされた須恵器 (5世紀後半) 【古新田遺跡】

遠江(遠州)で最古クラスの須恵器と埴輪を焼いた窯で、総数5基が確認されている。操業時期は5世紀末～6世紀後半。製品は大門大塚古墳、貫名地B2号墳(前方後円墳)、北野遺跡など、同時期の周辺遺跡から発掘されている。



完掘された衛門坂4号窯



衛門坂古窯跡群配置図



灰原から掘り出された須恵質埴輪・須恵器
灰原とは窯内の灰や炭を窯の前面に掻き出した堆積、中には焼けた多量の不良品が含まれる。この遺物もひどく重んでいる。



灰原を掘下げるようす

五ヶ山B2号墳 【浅名】

遠州灘を見下ろす小笠山丘陵の尾根稜線上に築かれた静岡県最大の方墳(33×28m、高さ4.7m以上)で、墳丘は2段に造られ、表面には葦石を敷き、テラスには埴輪が並んでいた。5世紀前半築造。

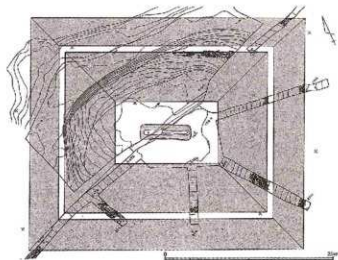
静岡県指定文化財(主体部出土品125点)

主体部からは、県内で初めて一式揃った形で出土した甲冑、革製鉾柄、革盾という貴重な漆塗製品、種類の豊富な鉄製武器類・農工具が見られ、5世紀における遠江の先進性を示す良好な資料として、2003年に指定を受ける。



甲冑

(三角板革綴短甲・三角板革綴衝角付冑・板綴・頸甲・肩甲)



墳丘復原図



漆塗製品

盾は埋葬者の上に置かれる。漆膜のみが残り、盾は朱と黒に塗り分けられていた。



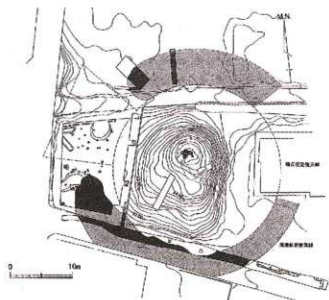
農工具類

武器類

いしのむた
石ノ形古墳 【国本】

東側には原野谷川が流れ、南には東海道が通る交通の要衝に築かれた、径27m、高さ3mの円丘に出っ張りを持つ、帆立貝式型と呼ばれる形態の古墳と考えられている。5世紀後半の築造。

中心には東西2ヶ所に主体部(埋葬部)があり、短甲、馬具をはじめ、多くの副葬品が出土した。



墳丘復原図



短甲 (横剥板鉄留短甲)
短甲(イサギョウダクせんこう)



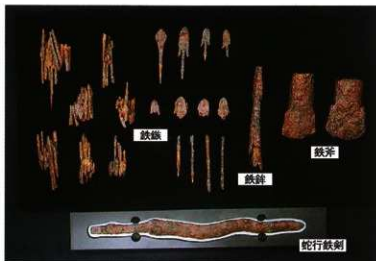
画像鏡

乳紋鏡

鈴鏡



馬具 (辻金具)



鉄櫛

鉄矛

鉄針

蛇行鉄刺



馬具 (フ字形鏡板付書・馬の口に付ける金具)

J R 袋井駅南側に位置する。小笠山丘陵末端の段丘上に築かれた団子塚古墳群(5～6世紀)の中の1基。6世紀前半に築かれた径17m、高さ1.8m以上の円墳で主体部は木棺直葬。

副葬品には鎧(挂甲)、鉄地銀装ねじり環頭大刀をはじめ、装身具に見るべきものが多い。



主体部

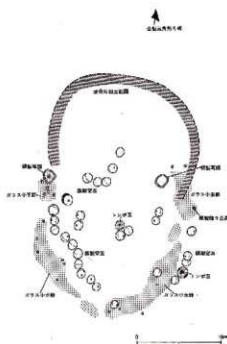
多くの副葬品があった。



挂甲の出土状態



装身具の復元



装身具出土配置図



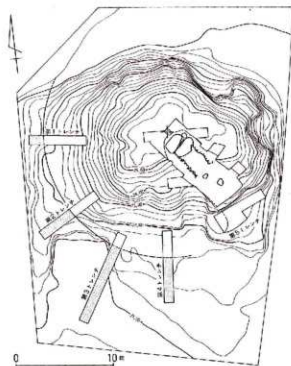
ねじり環頭大刀実測図

JR袋井駅近くの段丘上に築かれた6世紀中頃の円墳(径30m、高さ4.5m)で、回りに堀を巡らす。明治16年(1883)に地元民の手で発掘された。主体部は「竪穴系横口式石室」の可能性も指摘されており、首長クラスの中でも最有力者の古墳と考えられている。

出土品には当時の最新技法で作られた馬具が含まれている。須恵器は市内岡崎の衛門坂古窯で焼かれた製品。



石室



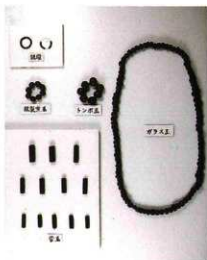
墳丘測量図



有蓋脚付短頸壺



広口壺・器台



装身具



馬具

横穴墓

一般の古墳は地面に土を盛り上げて塚を築くが、丘陵の斜面に穴を掘って玄室(埋葬する部屋)を造る横穴墓という形態がある。集落内の有力な家族墓として採用されたと考えられる。

袋井の横穴墓の分布は、北部の宇刈・春岡横穴群を中心とする地域、菅ヶ谷横穴群を中心とする東地域、地藏ヶ谷・愛野向山横穴群を中心とする南地域にわかれ、総数500基を超える遠江屈指の横穴墓を形成している。



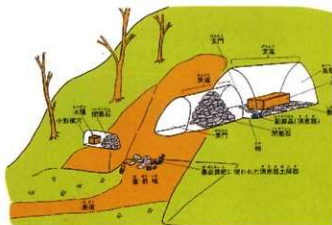
春岡A横穴群【春岡】



地藏ヶ谷横穴群【高尾】



主要横穴群の分布



横穴墓の構造

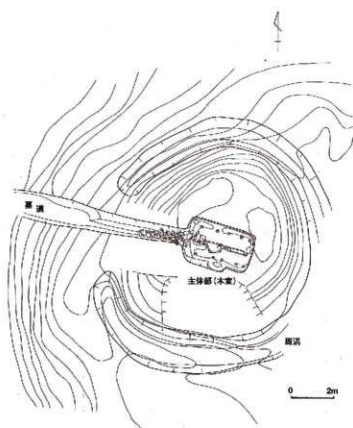


地藏ヶ谷5号横穴出土の首飾り 地藏ヶ谷10号横穴出土の冠帽

もくしつあん もくしんしつあん
横穴式木室墳（横穴式木芯室墳）

一般の古墳の埋葬施設は、石室や木棺を直接地面に埋める（木棺直葬）ものだが、断面三角形の木組みの部屋を設け、その中に死者を埋葬する特殊な墓制。場合によっては部屋に火を入れ、遺体を燃やしている。

遠江地方では、太田川・原野谷川流域に最も集中している。渡来系氏族・鍛冶工人の墓などの説があるが、確定はしていない。



団子塚G群1号墳実測図 【諸井】



団子塚G群1号 主体部
排水溝に石が敷き詰められている。



主体部の屋根組を覆っている粘土が掘り出されたようす
尿根形の三角形をしている。



主体部の床面
一面に炭・焼土が広がる。

**遺跡でたどる袋井のあゆみ
第2弾 古墳の巻**

編集 袋井市立 浅羽郷土資料館 TEL.0538-23-8511

発行 袋井市教育委員会 生涯学習課

本書は、袋井市立 浅羽郷土資料館の企画展（平成17年11月19日～18年1月22日）展示図録を兼ねた文化財啓蒙資料です。